

新型コロナ感染拡大に関する「非常事態宣言」は京阪神地区では早々と解除されたが、危惧していたように急速に感染者が増加しており、急遽「まん防」が施行される運びとなった。これで収まってくれれば良いが、昨今のこの地域の感染者増の増加を見ていると既に第4波の入り口にあるのではないかと危惧される。頼みのワクチン接種も来月以降と当面は「安心切符？」も望めない。当面はコロナフレイルに陥らないように更に気を引き締め自己管理のもと日々を過ごして行かざるを得ないか。

本日は雨、これまで続けて来た運動と「サクラ\$樹の花」観察も一段落、外回りも億劫なので、本日は頭の体操の目的で書き下して行こうかとおもっている。

*近畿6地区のソメイヨシノは全て満開が報じられているので昨年度と比較して見たい。

*関連し今年の附近のソメイヨシノの開花の様子

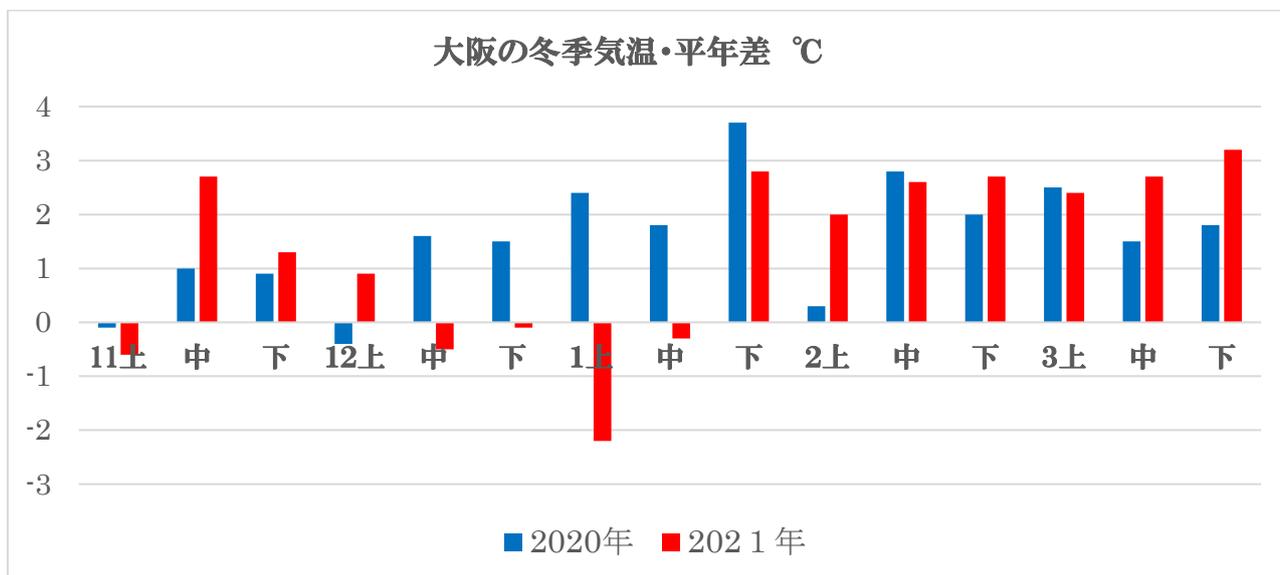
*近くの他のサクラの状況

など書いて見ようかと思っている。

1. 今年の冬期～初春の気温の傾向

本論に入る前に何時も期間の気温の経緯や今後の見込みを書いて来ている。これは、ご承知のように植物の生き様がその地、その期の気象と密接に関係するからである。特に、初春の気温の高低は開花や展葉に大きく影響するので重要であるが、樹木ではこれに加えて「休眠打破」というファクターが加わるので地球温暖化の進んで来た近年では冬季の気温の経緯も加味しなければならなくなって来ている。

ということで今回はこの附近の代表としての大阪の今年と昨年の温度経緯・平年との差を示しておく。



昨年度は記録的な暖冬と言われ、3月の気温も高かった年。今年は12月中旬～1月中旬まで平年を下回る気温、ところが1月下旬以降は平年を2°C以上も上回る暖かい日々が続いた。この結果、今年のソメイヨシノの開花や満開にどのように影響したか？を次項に記載します。

2. 2021年近畿地区のソメイヨシノの開花日と満開日

近畿6府県 of ソメイヨシノの開花日と満開日

場所	開花日			満開日		
	平年	2020年	2021年	平年	2020年	2021年
彦根	4月3日	3月27日	3月22日	4月9日	4月3日	3月30日
京都	3月28日	3月22日	3月16日	4月5日	3月30日	3月26日
大阪	3月28日	3月23日	3月19日	4月5日	4月3日	3月28日
奈良	3月29日	3月26日	3月21日	4月5日	4月3日	3月30日
和歌山	3月26日	3月22日	3月18日	4月4日	3月31日	3月27日
神戸	3月28日	3月26日	3月24日	4月5日	4月3日	3月30日

・2020年は暖冬であり「休眠打破」は遅れたが、それを上回って以後の気温が高かったため、各地とも開花が平年をより早くなったと解説されている。本年は、冬季の初期の気温が低く1月下旬からは去年を上回る暖冬となった為各地共昨年以上に早い開花となった。全国の状況については前報でふれたが、サクラ前線は山形まで進み、本州では秋田、青森の開花待ちの状況にあります。各地とも開花日が早まっており昨年以上に観測史上最速の記録が続出するものと思われます。近畿圏内でも彦根、京都、大阪、奈良は観測史上最速の開花日となりました。(なお、平年値は3月31日に変更されていますが旧値記載)

* これまでに頂いている皆さまからの観察木の開花日、満開日の調査書でも殆どの方が、開花、満開共、昨年より早いと報告されて来ています。皆さまの観察地では如何でしょう。

3. 附近のソメイヨシノの開花・観察

一歩外に出ればサクラという環境で過ごしているの、この季節は嫌でも気になる存在となって来ています。ソメイヨシノはクローンであるはずですから同じような環境であれば、同じように開花し満開となるはず? ですが・・・。実際はどうでしょうか、私の周りで今年一番の開花は3月11日、3月14日には数か所で開花を見ました。16、7日ごろの開花がピークで遅い樹では20日過ぎのものも存在しました。私の観察木は14日に数輪の開花したものの後続がなく、16日から花数が増えてくる状況でした。この観察木は26日に満開に達し、今は葉桜に移行しつつあります。観察木は周囲のサクラよりは例年2、3日早く開花することが分かっていたが今年も同様でした。また、昨年「遅くまで花をつけている個体があるよ」と4月の16日に配信したサクラだより24で記述したソメイヨシノの大木は昨日、昨年と同じような状況・満開とになっていました。昨年は3月末から気温が低くなったので単純な比較にはなりません。10日ほど早い満開と言えます。回りだけでなく、近くの夙川公園のように千本をこえる桜が植えられている場所でも開花や満開の期日には差があります。また、東京を始め大阪や神戸でも気象庁の発表する「標準木」の開花と周辺の樹の開花には差があり毎年ニュースの「ねた」となって取材対象とされて来ているのは衆知の通りです。何故でしょうね? クローンとは言え長い年月や、育成条件により遺伝的変異が出て来ているのでしょうか。



・ところで今年の開花時には昨年とは違った現象がみられましたが、気付かれたでしょうか？



左は今年の枝先の開花状況、右は昨年の花期が終わった時点での枝先の映像。枝先には楕円内のような立派に「冬芽」を持ちながら開花に至らなかった短枝やシュートが多くみられました。ところが今年は短枝や上方の枝先までキッチリと花がつけました。これが当たり前で昨年在異常な年であったのでしょうか。このような現象に気付くこと、「なぜ」を考えることこそ真の「観察」なのですが・・・。

4. オオシマザクラ or ヤマザクラ？



上の2枚の写真は散る寸前の花の画像です。両者は冬芽、開花前の挙動（蕾の展開、色、葉芽の展開の様子・・・）など殆ど変わりません。違いと言えば左は開花時から3、4日花色は白色ですが次第にピンク色を帯びて来、散る寸前には写真のようにかなり濃いピンクとなって来ます。一方右は散るまで白色です。夙川公園などでは左は「オオシマザクラ」と標記されていますが・・・。右はヤマザクラなのではないでしょうか。最近、ソメイヨシノに変わって街路やマンションの庭などには「ヤマザクラ」と標記されたサクラが多く植栽されるようになって来ています。褐色の葉、白花種はよいのですが、緑の葉・白花種には迷います。オオシマザクラも実は日本の自生種「ヤマザクラ群」の一員ですので連続的な変異もあるのかもしれませんが。

5. 近所のサクラ

5-1. 八重ベニシダレ

前報では枝垂桜、ベニシダレについて記述致しました。実は当マンションの中庭には一昨年、以前にあった「ヤマザクラ」が台風で倒れ、代わりにシダレザクラが植えられたのですが、実は「八重ベニシダレ」でした。ベニシダレよりは花期が遅く、開花が3月27日、満開は3月31日でした。



5-2. カスミザクラ



家から300mほど坂を下ったマンションの一面で写真のような高木に遭遇。これまで「サクラ」の認識はなかったのですが、まぎれもなく「サクラ」。樹皮の色、葉と花の同時展開、花が小型・白色であることから「カスミザクラ」に間違いのないようである。現在は3分咲き程度。



満開になったらどのような姿になるか楽しみ。それにしてもこんな街中で「カスミザクラ」に出くわすとは。

*付録として、附近のサクラ絶景ポイントの写真を添付します。興味ある方は御覧下さい。 以上